

耳鼻咽喉科が扱う病気

2014.05.12 (月)

(3) のどに関連した病気

★声帯ポリープ

声帯ポリープとは、声帯に生じる炎症性の腫^{しゅりゅう}瘍です。ポリープの大きさはさまざまで、ほとんどが片側に生じる。主に、女性よりも男性に多く、歌手やアナウンサーなど声を出す職業の方やたばこの煙の刺激の刺激などによって起こりやすくなる。さらに、風邪などによる上気道炎が重なれば声帯全体が大きく腫れあがり、ポリープができやすくなる。声枯れが主症状ですが、のどの違和感や発声時の違和感などを示すこともある。

ポリープが大きくなるとまれに呼吸困難をきたす場合があるため、ポリープができただけのときは、のどを休めて一定の期間声を出さない沈黙療法や吸入療法などを行うか、あるいは消炎薬の投与やステロイドホルモンの吸入治療を行うことでポリープが自然になくなることもある。しかし、これらの治療に反応しない時は、ポリープの切除手術による処置が施される。

★誤^{ごえんせいはいえん}嚥性肺炎

食べ物がのどの奥に進むと、その信号が脳に伝わり、脳からの指令で気管の入り口がふさがる。しかし、加齢に伴いのど周囲の筋肉や神経伝達の機能低下により、嚥^{えんげ}下の^{こうとうがい}喉頭蓋が下がるのに時間がかかるようになるため、気管に食べ物や唾液が入りやすくなってしまいます。また、脳梗塞の後遺症で飲食物の飲み込みがうまくできない場合も喉頭蓋が下がりにくくなることもあるため、注意が必要。

このように、食べ物に含まれている細菌が気管に入り、そのまま肺へ侵入してしまう誤嚥が起これると、肺炎を引き起こしやすくなる。

誤嚥は食事のときだけでなく、睡眠中に唾液や逆流した胃液が気管に入ってしまう、引き起こされる場合もある。さらに虫歯や歯周病があると口内細菌が増殖しているため悪化しやすくなる。

誤嚥性肺炎を予防するためには、よく噛んでゆっくり食べるように心がけ、食後は口の中を清潔に保つように心がけましょう。

コラム 咳とくしゃみ

気管は、肺門という左右の肺の入り口の手前で、2本の気管支に分かれる。気管の内壁には、線毛と呼ばれる細かい粘膜突起があり、空気とともに侵入したチリやほこりがこの線毛にひっかかる。する

と、気管の粘膜が刺激され、神経を介して横隔膜や肋間筋^{ろっかんきん}が急激な伸縮を起こし、咳が出る。この時の線毛についたチリやほこりは、食道から胃に入り、消化されるが、量が多いと粘液につつまれた状態で、痰となって吐き出される。また、鼻腔の粘膜にチリやほこりがつくと、これらを追い出そうとして、くしゃみが出る。